

2024年度
入学試験問題 (1期)

国語

2024年2月5日(月)

解答を始める前に次の注意事項を十分に読みなさい。

受験上の注意事項

1. 受験票と筆記用具以外は机の上に置いてはいけません。
2. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
3. 不正行為と認められた場合には退席を命じることがあります。
4. 「開始」の合図で、問題冊子・解答用紙を点検し、解答用紙の受験番号・氏名欄に受験番号・氏名をはっきり書いてください。
5. 問題に関する質問は不明瞭な文字等の確認以外は応じません。
6. 問題冊子の余白部分や白紙のページは、自由に使用してかまいません。
7. 試験終了時まで退席することはできません。試験終了の合図と同時に、監督者の指示にしたがって解答用紙を通路側に置いてください。
8. 身体の具合が悪くなったときは、手を挙げて監督者に申し出てください。
9. 携帯電話を持っている人は電源を切ってください。これを時計として使用することはできません。
10. 問題冊子は持ち帰ってかまいません。

次の**文章A**と**文章B**に関する設問に答えたのち、**文章A**と**文章B**を関連づけて考察する設問に答えなさい（作問の都合上、一部表記を改めた所がある）。

文章A

言語使用における身体性の重要性

言語習得および言語の使用において、身体の果たす役割は**セツダイ**^aである。私たちは、会話を行う時、無意識に数多くのジェスチャー（身振り手振り）を行っている。言語はそもそも身振りから進化したという説もある（Corballis, 2009）。言語の進化におけるジェスチャーの意義はまだはっきりわかっていないものの、会話において、ジェスチャーがさまざまな役割を果たしていることは確かだ。言語化されていないことをジェスチャーで補うこともあれば、言語化されていても、意味があいまいな時に、あいまいさを補うために使うジェスチャーもある。言語化されたことを強調するためのジェスチャーもある。

ジェスチャーの他にも、うなずきや、話し手に視線を合わせたり、「ああ」「ええ」といった「相づち」をするなどの言語・非言語行動（こうした行動は、言語学ではバック・チャンネル行動などともいわれる）も、スムーズに会話を進めるための重要な役割を果たす。

コロナ禍で、大学生も社会人も、Zoom, Microsoft Teams, Bluejeansなどのビデオ会議用ツールを使って授業や会議を行う人が増えたが、こうしたプラットフォームを使った会話で、相手の顔を見ることができる利点があるにもかかわらず、どうも疲れるとか、アイディアを出すような会議では使えないといった経験を持つ人も少なくないに違いない。^①**ビデオ会議が疲れる理由**はいくつか考えられている。「A」、対面型の会議に比べ、相手の顔が近すぎたり、視線を合わせる状況が多いのにもかかわらず、Zoom等のプラットフォームでは、カメラと画面のずれから、視線が合わないことが多く、バック・チャンネル行動が減少してしまったり、カメラの設定により、ジェスチャーが見えにくくなってしまったりすることが挙げられている。

ジェスチャーやバック・チャンネル行動には、文化差や個人差もあるが、大きく制限されると、違和感を覚えたり、生産性が落ちることが知られている。特に日本語話者は（英語話者と比べると）うなずきが多いことが実証研究でも報告されており（Maynard, 1986）、うなずきが制限されることで、特に違和感を覚えやすいのかもしれない。

また、人間の脳は、相手の非言語行動を無視できず、それが何を意味するのか、ついつい解釈しすぎてしまうという。ビデオ会議では、スピーカーでない人の非言語行動も気になってしまいがちだ。必要以上の解釈は、認知資源の余分な消費につながる（その他、理由は不明だが、ビデオ会議では、対面の会議の時と比べ、人は平均して15%ほど大きな声で話すという。それも疲

れる一因だろう) (Balienson, 2020)。いずれにせよ、^(注1)オーラル・コミュニケーションにおいて、視線やジェスチャーなど、こ
とば以外の身体のみならず役割は大きい。

身体性は会話だけでなく、読み書きの際にも重要な役割を果たす。試験前に手で書くことで、記憶が促進された経験は誰にでもあるだろう。私たちは紙の媒体で読む場合、ページが効率良くめくられるように手で準備していたり、手の位置が読みの視線をユウドウする役割を果たしていたことを思い出してほしい。読みの最中に行っているポインティングやなぞり、手の位置に合わせて本を傾けるなど、手の果たす役割は大きい。身体的行為が、読みの深さに影響を与えるのである。

教育や発達研究に非常に大きな影響を与えてきた理論の一つに、ロシアの心理学者ヴィゴツキーが唱えた**文化歴史的理論**がある。この理論では、子どもの心理・認知機能は、人間が社会生活を営む過程で創造してきた数字や言語などの文化的道具を媒介として、高次なものに発達していくと考えられている (Vygotsky, 1978)。数学者の森田真生の著書『数学する身体』によれば、トレスカイキヨウ諸島の原住民は、指をはじめ、全身の部位を使って33まで数えるという。中世のヨーロッパには、指だけで9999まで数える方法があった。私たちは誰しも、子どものころ指を使って数を数えた経験がある。十進法が広まったのは、私たちの手の指が10本だったからだ (森田2015)。

森田は『数学する身体』の中で、1, 2, 3……といった数が自然数 (natural number) といわれるのは、それが「あらかじめどこかに「自然に」存在している」からではなく、「もはや道具であることを意識させないほどに、それが高度に身体化されているから」だと言っている。興味深いことに、言語学でも、日本語や英語など人間が話す言語を「自然言語」(natural language) という。これも森田に言わせれば、「それが高度に身体化されているから」ということになるだろう。手で数えている「行為」は、それを繰り返して行うことで、つまり身体化が進むことで、頭の中で「B」に数字を操ることができるようになり、これは「思考」と呼ばれることになる。森田は、数字を使った行為と思考は分化できないと考える。この考えに従えば、ことばを使った言語行為も、身体化の過程の中で、思考と切り離せなくなっていることになる。私たちの思考と身体化された言語行為は一体だということだ。

デジタル・テクノロジーも、私たち人間が環境の中に作り出した一つの道具だと考えることができる。道具が、人間の思考・認知と結びつくためには、身体化の過程が欠かせない。とりあえず道具を手にしたところで、それが身体化されないものならば、思考や学習に、直接は結びつかないのだ。

(注1) オーラル・コミュニケーションII 会話による意思伝達

(バトラー後藤裕子著 『デジタルで変わる子どもたち——学習・言語能力の現在と未来』 ちくま新書より)

〔設問〕 次の設問に答えなさい。

問1 波線部 a～e で、「カタカナ」は漢字に、漢字は読みを「ひらがな」で答えなさい。

問2 筆者の言う①ビデオ会議が疲れる理由の要因は何か、その説明として適切でないものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 「ああ」「ええ」といった「相づち」をするなどの言語・非言語行動を用いること。

イ ビデオ会議では、スピーカーでない人の非言語行動も気になってしまうこと。

ウ ビデオ会議では、対面の会議の時と比べ、人は平均して15%ほど大きな声で話すということ。

エ Zoom等のプラットフォームでは、カメラと画面のずれから、視線が合わないこと。

問3 「A」に入る適語を記号で選びなさい。

ア 例外として イ もちろん ウ しかし エ たとえば

問4 「B」に入る適語を記号で選びなさい。

ア 突発的 イ 例外的 ウ 抽象的 エ 帰納的

問5 ②身体性は会話だけでなく、読み書きの際にも重要な役割を果たす。とあるが、身体性は読み書きにどのような役割を果たしているか。本文中の言葉を使い、八十文字以内で答えなさい。

問6 ③文化歴史的理論とあるが、その説明として適切なものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 子どもの心理・認知機能は、人間が社会生活を営むことで創造した数字や言語などに依拠している。
- イ 子どもの心理・認知機能は、社会生活を営む過程で創造した文化的道具を媒介として、高次元ものに発達していく。
- ウ 数字や言語などの文化的道具によって、子どもの発達は影響を受けてきた。心理・認知機能は不思議な過程をたどっている。

エ 文化的影響の事実によって、子どもの心理・認知機能は決定される。数字や言語などの影響は大きな存在である。

文章B

手書きメモはPCに勝る

スマホの使用に特にシンチヨウになったほうがいいのは、学校や大学の教室内だ。そこで奮かされるのは集中力や作業記憶だけではない。長期記憶を作る能力にも悪影響が出る。スマホやパソコンがそばにあるだけで、学習能力が落ちるのだから。

ある研究で、2つの大学生のグループに同じ講義を聴かせた。片方のグループは自分のパソコンを持参し、もう片方は禁止されていた。パソコンを持参したグループが講義中に何をしているかを調べてみると、講義に関するウェブページをいくつも見ていて、そのついでにメールやフェイスブックもチェックしていた。講義の直後、パソコンを使った学生たちは、もう一方のグループほど講義の内容を覚えていなかった。学生に偏りがあったためではないのを確認するために、同じ実験を別の2グループでも行った。やはり結果は同じで、パソコンなしのグループの方がよく学習できていた。

それなら、講義中にフェイスブックを開くのをやめればいいのでは？ もちろん、それで確実に効果はある。しかし、SNSを見てしまう以外にもパソコンが人間の学習メカニズムに与える影響があるようなのだ。米国の研究では、学生にTEDトークを視聴させ、一部の学生には紙とペン、残りの学生にはパソコンでノートを取らせた。すると、紙に書いた学生の方が講義の内容をよく理解していた。必ずしも詳細を多数覚えていたわけではないが、トークの趣旨をよりよく理解できていた。この研究結果には、「ペンはキーボードよりも強し——パソコンより手書きでノートを取る利点」という雄弁なタイトルがついた。

これがどういう理由によるものなのかは正確にはわからないが、パソコンでノートを取ると、聴いた言葉をそのまま入力するだけになるからかもしれない、と研究者は推測する。ペンだとキーボードほど速く書けないため、何をメモするか優先順位をつけることになる。「C」、手書きの場合はいったん情報を処理する必要があり、内容を吸収しやすくなるのだ。

興味深いのは、スマホと一緒にいる時間が長いほど気が散ることだ。スマホを持って講演を聴いた参加者は、スマホを会場の外に置いてきた参加者と比べると、最初の15分の理解度は同じくらいだった。しかしその後は、講演から得られる情報がどんどん減っていった。15分間真剣に話を聴いたら、そのあとは集中が途切れやすくなるのは当然だ。そこでスマホが最後の一押しになるのかもしれない。

長期記憶を作るには集中が必要

何かを学ぶ、つまり新しい記憶を作るとき、脳の細胞間の繋がりに変化が起きる。短期記憶——短時間だけ残る記憶——を作るには、脳はキゾンの細胞間の繋がりを強化するだけでいい。だが数カ月、数年、あるいは一生残るような長期記憶を作ろうとすると、プロセスが複雑になる。脳細胞間に新しい繋がりを作らなければいけないのだ。記憶を維持し長く保たれるようにするために、新たなタンパク質を合成しなければいけない。

だが、新しいタンパク質だけでは足りない。記憶の長期保存には、新しくできた繋がりを強化するために、そこを通る信号を何度も出さなければいけない。この作業は脳にとって大仕事な上に、エネルギーも必要になる。新しい長期記憶を作ること——専門用語では「D」と呼ぶのだが——は、脳が最もエネルギーを必要とする作業だ。これは私たちが眠っている間に行われるプロセスで、後でも見えていくが、人間が眠ることの大事な理由にもなってくる。

固定化がどのように行われるのか、「E」。私たちはまず「何か」に集中する。そうやって脳に「これは大事なことだ」と語りかける。エネルギーを費やす価値、つまり長期記憶を作る価値があるのだと。つまり、積極的にその「何か」に注意を向けなければ、このプロセスは機能しないのだ。昨日、仕事から帰って鍵をどこに置いたのか思い出せない。その原因は、あなたが集中せずに別のことを考えていたからだ。脳は、これが大事だという信号を受け取らず、鍵を置いた場所を記憶しなかった。だから翌朝、あなたは家じゅう探し回ることになる。

同じことが騒がしい部屋でテスト勉強するときにも言える。集中できないから脳は「これが大事」という信号をもらえないし、あなたは読んだ内容を覚えられない。これはつまり、記憶した情報は思い出すこともできなければいけないということだ。先に言った通り、記憶するためには、集中しなければいけない。そして次の段階で、情報を作業記憶に入れる。そこで初めて、脳は固定化によって長期記憶を作ることができる。ただし、インスタグラムやチャット、ツイート、メール、ニュース速報、フェイスブックを次々にチェックして、カンタンなく脳に印象を与え続けると、情報が記憶に変わるこのプロセスを妨げること

になる。色々な形で邪魔が入るからだ。

絶えず新しい情報が顔を出せば、脳は特定の情報に集中する時間がなくなる上に、限られた作業記憶がいっぱいになってしまふ。テレビがついている中で勉強しようとして、おまけにスマホもいじっている。脳はあらゆる情報を処理することに力を注ぎ、新しい長期記憶を作ることができなくなる。だから読んだ内容を覚えられないのだ。

(注1) TEDトーク ≡ Technology Entertainment Design の略で、様々な業界の人が英語でプレゼンテーションを行う番組。

(アンデシユ・ハンセン著 久山葉子訳『スマホ脳』新潮新書より)

〔設問〕 次の設問に答えなさい。

問7 波線部「く」で、「カタカナ」は漢字に、漢字は読みを「ひらがな」で答えなさい。

問8 ④紙に書いた学生の方が講義の内容をよく理解していた。とあるが、その原因を筆者はどのように考えているか。その説明として適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア パソコン入力の場合は、早く記録できるため、聞いた言葉をよく吟味できるから。
- イ 手書きの場合は、書く時間がかかり、その時間が記憶に繋がるから。
- ウ 手書きの場合はいったん情報を処理する必要があり、そのことが、内容を吸収しやすくするから。
- エ パソコン入力の場合は、文字を一層意識化できることから情報過多となり混乱するから。

問9 「C」に入る適語を記号で選びなさい。

- ア だが
- イ つまり
- ウ 話は変わるが
- エ 一方

問10 「D」に入る適語を文章中から漢字3文字で抜き出しなさい。

問11 「E」に入る適語を記号で選びなさい。

- ア まとめて考えてみよう
- イ 反論してみよう
- ウ 否定的に考えてみよう
- エ もう少し詳しく見てみよう

問12

⑤長期記憶を作るためには何が必要ですか。適切でないものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 脳は細胞間のつながりを強化することのみに専念すること。
- イ 新しくできた繋がりつなりを強化するために、そこを通る信号を何度も出すこと。
- ウ 「これは大事なことだ」と言う信号を発すること。
- エ 積極的に長期記憶する対象に注目し、集中すること。

問13

文章Aと文章Bにおける共通した論旨を書きなさい。また、その論旨について、自分の考えを書きなさい。二段落構成とすること。一段落目に共通の論旨を書き、二段落目に自分の考えを書きなさい。(この設問に関してのみ、段落始めの文字空けを必須とする)両方合わせて百二十字以内で書きなさい。

〔Ⅱ〕

以下の文章を読んで、後の設問に答えなさい（作問の都合上、一部表記を改めた所がある）。

言語の理解に身体性は必要か

言語には身体性があるのか。あるいは必要なのか。言語学では伝統的に、ことばに身体とのつながりはなく、その必要もないという考えが主流だった。オノマトペはこの見解に反する。「A」オノマトペの存在自体が、この見解への挑戦である。この事実に対し伝統的な言語学では、オノマトペは言語の周辺にあり、取るに足らない例外であるという見解を示している。

「B」初期（1990年以前）の人工知能（AI）研究でも共有されていた。この時代のAIでは、人間の知識の実装をする際の単位は単純な概念を表す記号であり、その記号を組み合わせればどんなに複雑な概念も作り出すことができると想定していた。

しかし、ひとたび言語を「②媒体」と考え、意味がどのように始まるのかという問題を考えると、人間が話す言語が身体から分離された抽象的な記号から始まっているという考えは「③」に受け入れがたい。人間がコミュニケーションの道具としてそれぞれの意志や感情を他者に伝え、コミュニケーションの合意を形成するために大切な言語に用いられる記号の体系は、身体を経て得られる感覚、知覚、運動、感情などの情報に由来する意味を持っているはずである。しかし同時にことばは、身体性から離れて独自の意味をも持ちえる。このような言語の二面性は、「C」道筋をたどれば可能になるのだろうか？

永遠のメリーゴランド

この疑問は、認知科学において今なお未解決の難問とされている。

認知科学者のステイブン・ハルナツドは、人間が機械に記号を与えて問題解決をさせようとしたAIの記号アプローチを批判し、記号の意味を記号のみによって記述しつくすことは不可能であると指摘した。言語という記号体系が意味を持つためには、基本的な一群のことばの意味はどこかで感覚と接地（Ground）していなければならない、というのが彼の論点である。彼はこの問題に具体的なイメージを与えるため、外国語を外国語の記号のみから学習する事態を例に挙げている（今井訳）。

あなたは中国語を学ぼうとするが、入手可能な情報源は中国語辞書（中国語を中国語で定義した辞書）しかないとしよう。するとあなたは永遠に意味のない記号列の定義の間をさまよい続け、何かの「意味」には永遠にたどり着くことができ

ないことになる。

まったく意味のわからない記号の意味を、他の、やはりまったく意味のわからない記号を使って理解することはできない。他方、中国語の語を母語の語を介して理解することは可能である。母語の語は「感覚に接地」しており、接地した語を通じて接地していない外国語の記号を理解することが可能なのである。

ハルナツドの提起した記号接地問題^(注1)は、子どもが母語を学習する際に実際に起こる問題でもある。意味を知っていることばを一つも持たない子どもは、まったく意味のない記号を使って新たに記号を④することはできない。言語と感覚とのつながりをまったく知らない子どもが、辞書を用いて言語を学習することは不可能である。

一方で、成人はおよそ感覚に接地しているとは思えないような概念をも、あたかもそれが感覚と接地しているかのように言語的に表現することができる。実際、私たちの言語には目に見えない、物理的な実体を持たない抽象概念を表す語が多く含まれている。たとえば「愛」ということばを例に考えてみよう。「愛」という語が指し示す概念には、物理的な実体はない。「愛」ということばを知らない子どもは「愛」という感情を理解できないだろうか？

直観的に考えれば、子どもは少なくとも自分に向けられた「愛」については、「愛」という語を知らなくても理解できる。

今度は、機械が「愛」を理解できるかを考えてみよう。たとえば自然言語処理システムに、「愛」の定義をことばで与えたら（たとえば、日本で出版されているすべての辞書の「愛」の語釈をすべてインプットするなど）、機械は「愛」の意味を理解できるだろうか？

ところで、これまで「身体的」ということばを頻繁に使ってきたが、そもそも「身体的」とはどういうことだろうか？ 実はこれは言語とは何かという問題を考える上で本質的な問題である。逆に考えると、オノマトペの意味は「身体的」なのだろうか？

ハルナツドは、機械が辞書の定義だけのことばの意味を「理解」しようとするのは、一度も地面に接地することなく、「記号から記号への漂流」を続けるメリーゴーランドに乗っているようなものだと述べている。他方、^⑤永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態を回避するためにすべての記号が身体に直接つながっている必要はないとも言う。最初の一群のことばが身体に接地していればよい。身体につながっていることばはあるポリュームで持っていれば、それらのことばを組み合わせることで、「D」それらのことばと対比させることで、直接の身体経験がなくても、身体に接地したものとして新たなことばを覚えて

⑥ いくことができるのである。

この考えは発達心理学の観点からしごく納得できるものであるが、言語習得のメカニズムを理解するために本当に大事なものは、これ以降の詳細である。ここからどのようにしたら身体から離れていけるのか。そのプロセスを詳細に理解したい。しかし、この点に関してのハルナツド自身の考察はここで終わってしまっているので数々の疑問が残されている。最初の身体に接地されたことばの一群とはどういうことばなのだろうか？そこから言語はどのように身体から離れていくのだろうか？この二つは言語習得、「E」言語進化にとってもっとも大事な問いである。

(注1) 記号接地問題 II 人工知能(AI)の知識表現において、そこで使われる記号を実世界の实体がもつ意味に結び付けられるかという問題。

(今井むつみ・秋田喜美著 『言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか』 中公新書より)

〔設問〕 次の設問に答えなさい。

問1 空欄「A」→「E」に入る最も適切な語を一つずつ選びなさい。なお、それぞれに異なる語が入る。

A この考え方は I あるいは U ひいては E それどころか O どのような

問2 傍線部①オノマトペの存在自体が、この見解への挑戦である。とあるが、それはどのような意味か。適切なものを次のア〜エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- A オノマトペの存在というものは身体性を表現した言語である。
- I 人間の知識の実装をする際の単位は単純な概念を表す記号である。
- U ことばに身体とのつながりはなく、その必要もないという考えが主流である。
- E オノマトペは言語の周辺にあり、取るに足らない例外である。

問3 空欄②に入る適切な表現を次のア〜エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- A 意味の無い I 意味が深い U 意味を持たない E 意味を運ぶ

問4 空欄③に入る適語を次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 感情的 イ 霊感的 ウ 直感的 エ 直情的

問5 空欄④に入る適語を次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 放棄 イ 獲得 ウ 減殺 エ 導入

問6 傍線部⑤「永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態を回避する」とあるが、回避する方法として、適切でないものを次

のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 言語と身体とのつながりは、言語においては存在しないので、身体的要素を言語から排除する。
イ すべての記号が身体に直接つながっていないなくても、最初の一群のことばが身体に接地している。
ウ 身体につながることばをあるポリウムで持ち、それを組み合わせて新たなことばを覚える。
エ 身体につながることばをあるポリウムで持ち、それと対比させて新たなことばを覚える。

問7 ⑥「この考えは発達心理学の観点からしごく納得できるものである」とあるが、この考えとは何を示すのか。本文中の言葉

で、九十文字以内で答えなさい。

(I)

問11	問8	問7	問6	問5	問2	問1
		f				a
		g				b
問12	問9	h			問3	c
		i				d
	問10	j			問4	e

志望 学部・学科	受験番号
第1	
第2	
第3	

※太枠内を記入

氏名

合計点

(II)

		問7	問5	問2	問1		問13
					A		
					B		
		問6	問3		C		
					D		
			問4		E		

